
四畳半一間の革命

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

四畳半一間の革命

【Nコード】

N30480

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

一人の人間が世の中を変えられるわけじゃない。だけど、もし世の中を変えられるとしたら、そのためには一人ひとりの人間の力が必要不可欠だ。革命の発信地は、あなたであり、僕であるべきなのだ。たとえその試みが無駄だったとしても、無意味じゃない。一見無駄に見える小さな試みを重ねる事でしか、船を動かす事はできないのだ。

「今の時代、ほんと仕事がない」と友人Aが言った。

「選ばなければあるよ。仕事が無いとか言ってる奴は甘えてるんだよ」と友人Bが言った。

それを聞いて僕は思った。

そりゃあ、仕事を選ばなければ仕事はある。

でも、本来なら選べるべきじゃないか。

仕事を選ぶ事ができない社会が、いったいどれほど健全と言えるのか。

希望とかそういう類のアレは、目に見えないところにだけあればいい。

目の届く範囲にそれがあつたなら、それは希望じゃなくてただの予定調和になってしまう。

決められた筋道をただ淡々と辿る事は、不幸ではないかもしれないけれど、あまり心の躍る作業でもない。

欲しいのは、揺らぐ事なく明日を照らす安寧の光じゃなくて、今日の夜闇にあえて手を伸ばした時、もしかしたら光にとどくかもしれないっていう可能性なんだ。

だけど資本主義はこれとは少し話が違う。

資本主義っていうのは、全ての人に平等に可能性を与える素晴らしい制度なんかじゃなくて、「全ての人に可能性が与えられているよ
うな錯覚」を振りまいて、可能性を追い求める若者たちをうまい事
言いくるめて飼いならす為の道具だからだ。

権力者は他の誰よりも優位な条件で次の勝負に挑めるし、勝利すれば
桁の違う利益を得られる。

勝者以外（あえて敗者に限定しない）は、勝者が独断で制定した
ルールに則ってどこまでも不利な戦いを強いられる上に、勝利する
までペナルティを課せられ続ける。

ただあらゆる意味で不公平な勝負を強いられるから、勝利できる
可能性は限りなく0に近い。

ごく一部の勝者は掛け算式に富を増やせるけど、それ以外は吸い
取られてどんどんしぼんでいく。

もしあなたが、今の日本を支配する資本主義制度にまったく不満を
感じていないなら、あなたは幸い今のところ決定的な敗北を喫せず
に済んでるからだろう。

だけど、資本主義社会は、問答無用で強制全員参加のトーナメント
バトルと一緒だ。

第一回戦を勝てば第二回戦が待ってる。

第二回戦を勝ってもまた第三回戦が。

延々と戦いを強いられ、準々決勝、準決勝、決勝とたどり、最後に
勝者はひとりになる。

あなたが人類最強の人間で無い限り、どこまで勝ち進んだって、いつかどこかで負ける時が来る。

あなたが「敗者」にならないためには、最後に勝ち残った一人になる以外に手は無い。

これが資本主義だ。

「資本主義とは、頑張れば頑張っただけ、その頑張りに見合ったお金を稼げる、とても希望と可能性に満ちた制度なんですよ！」なんて大声で洗脳活動に勤しんでる人々がいるけれど、僕はそんな制度を盲目的に信じて光を見出せるほど馬鹿じゃない。

「頑張ったから、より多くのお金を得られる」わけじゃない。

「頑張つて、他を蹴落としたから、その分自分の取り分が増える」だけなんだ。

そして、そういう戦いに勤しめば勤しむほど、蹴落とすべき次の敵のレベルが上がって、どこかで自分のちからは太刀打ちできない敵に遭遇して「蹴落とされる側」になる。

資本主義が、ねずみ講やマルチ商法となんら変わらない詐欺まがいのシステムである事に、アメリカ人達は家を奪われてようやく気づいた。

日本人が、自分達の過ちに本当に気付くのはいつたいつだろう。失う前に気づけるか、それともアメリカのように多くを失ってから気づくのか。

搾取されてる弱小側同士で小競り合いをして、微々たる分け前を奪い合う事をいつまでし続けるのか。

本当に牙を剥くべき敵は「向かいのビルの同業者」じゃなくて、くだらない同士討ちを仕組んで、はるか高みから都合よくそれを利用してマネーゲームで暴利をむさぼってる連中じゃないのか。

発展を促すために競争して切磋琢磨する事は有意義な事だと僕も思うし、共産主義が正しいとも思わない。

ただ、ここまで資本主義に傾倒しない、もう少し民主主義的なやりかたがあるんじゃないかと思う。

無論民主党なんかは全くこの「民主主義」と関係ない。

元来の意味での民主、つまり国民にとって有意義な指針を打ち立てるべきだし、権力者達は己の都合でそれを逃れたり、ちから技で無理やり捻じ曲げたりするべきじゃない。

僕は多くを望む人間ではないし、勝利とは無縁のこの人生に、相応に納得してもいる。

必要以上の豊かさに頼らないでも、心を充実させる術を僕は心得ているからだ。

だけど、己の強欲さに従わず、律する事に注力する慎ましい生活をすらも傲慢な暴力で脅かすのが資本主義である以上、懸念は拭えない。

僕は基本的に人を憎まない。

けれど、資本主義の基礎動力となる「過度の欲望」にだけは憎悪の念を禁じ得ない。

結局のところ、資本主義というモンスターがその力を失わないのは、

多くの人々が「己の強欲さ」を対して、戒める事より翻弄される事を選んでるという事の現れなのだと思う。

己の強欲さに翻弄されるのが人の元来の姿であるのだと言えば、あるいはそうなのかもしれない。

けれど、たとえもしそうだとしても、強欲さに抗う事に意義はある。

僕は、必要以上に豊かじゃなくていいから、家族や友人と、人間的な充実と幸福を共有して生きていたい。

かなわない夢があってもいいし、欲しいものが必ず手に入らなくなってもいい。

だけど、休日の夜は家族でご飯を食べたいし、暑くも寒くも無い夜は、友達と歌いたい。

本当に心から誇りをもって労働に身と心の全てを捧げられるなら、休みもなく朝から晩まで働くのもいいだろう。

だけどそうでないなら、労働とは人生を支え、豊かにする為に存在するべきだ。

労働のせいで人生から人間的な豊かさが損なわれ、労働に支配されるならば、それは奴隷と一緒だ。

事実、日本人の平均的な年間労働時間は、とある国の奴隷の労働時間に匹敵する。

世の中がどのようになっていくのかという指針は、政治家や一部の権力者が独断で決めるべきものじゃなくて、国民ひとりひとりももう少し真剣に考えて、声に出して、それらを統合して描き出すべき

なんだと思う。

無論、思い描いたように物事が進むわけじゃない。必ずしも定めた指針の通りにはいかないだろう。

それでも「その指針の通りになるかならないか」より前に、まず僕やあなたの声が、その指針にもう少し色濃く反映されるべきなのだ。

僕は、今の世の中やっぱり少し歪みが過ぎてると思う。

けれど「じゃあどうすればいいのか」を語るべきなのは「僕」じゃない。

一人の人間が考え出す「名案」で物事を推し進める事が正しい解に繋がるかは僕は考えない。

一人ひとりの人間が、もう少し自分達の人生、その人生を生きるフィールドであるこの国について真剣に学び、考え、それを互いに語り、ぶつけ合い、研磨して、そういうのを繰り返して、そこに生まれるエネルギーこそが、従うべき本来の「民主的な指針」なのだと思う。

民主性を欠いた資本主義社会は、独裁的社会主义国家となんら変わらない、酷く危険な社会である事を、僕らはもう少し深く理解するべきだと思う。

北朝鮮や韓国や中国の孕む欠点を非難して嘲笑する前に、自分の国

が抱える欠点や問題にこそ、まず第一に目を向けるべきだと僕は思う。

とても、あぐらをかいて他国をなじって、ほくそ笑んでいられる立ち居地に、今この国は無いと思う。

自身の非を理解しようとせず、他者の非ばかりを声高に指摘する愚かさは、どんな「他者の非」よりも卑しい種類の非だと思う。

僕は、勝利とは無縁の無能で怠惰な人間だけど、誇りを失いたくは無
い。

できる事は多くないけど、できる事をやれなかった場面は多々あるけれど、「できる事をやれなかった自分」を許したくは無
い。

できる事を少しずつでも重ねていきたい。
うまくできなくても投げ出したくない。

投げ出しても、再び取り組む事の意義を忘れたくない。

4 畳半一間分のささやかな革命に、意義がある事を忘れたくない。
そういう個人レベルの小さな革命を、互いに重ね合わせて、分かり合える人のそれも、分かり合えない人のそれも封殺しないで、全てを重ね合わせて船を動かすべきなのだという事を忘れたくない。

世界が有限か無限か、果てがどこなのか、自由とは何か、どこまでかを定めるのは、他の誰かじゃなくて僕らであるべきなんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3048o/>

四畳半一間の革命

2010年10月14日01時57分発行